色えんぴつ

第10号

初等教育学科だより

就実大学人文科学部/教育学部
初等教育学科

2013年 1月23日発行

〒703-8516 岡山市中区西川原1-6-1 TEL.086-271-8111(代表)
URL:http://www.shujitsu.ac.jp/web/department/cultural/elementary/index.html
E-mail:shotou@shujitsu.ac.jp

初等教育学科の魅力は？

《秋吉学科長》初等教育学科には、将来の明確な目標を持った学生が多いため、教員としてのやりがいを感じているし、指導もしやすい。また、学生同士の仲が良く、同級生のみならず学年を超えての交流も多く、学科全体としての団結力があるのも印象的。また4年生の採用試験前には、個別に模擬授業の練習や面接練習、実技指導などを行っている姿をよく見かけるように、教員と学生の繋がりも強い。

～新設から5年

教員による熱き支援で共に未来を拓く

運営委員の学生12名が学科長の秋吉先生を囲んで座談会を開きました。
初等教育学科について思っていることを自由に話し合いました。

これからの方向性について

《秋吉学科長》初等教育学科の良い伝統を引き継ぎ、発展させていってほしい。同級生との「ヨコ」の絆のみならず、先輩、後輩、教員、卒業生との「タテ」の絆も定着させていきたい。

《学生》先輩方の残した伝統を受け継ぐ。例えば運動会などはぜひ続けていきたい。企画、運営をしていく中で感じる大変さや充実感、参加する中で、人とかかわることの楽しさや団結力の素晴らしさなどを知ることは将来、役に立つと思う。それらの取り組みの中で生まれる絆を生かして、初等教育学科全体のパワーアップに繋げていきたい。

学生が今後取り組んでいきたいこと

《学生》有志の団体の活動などをさらに充実させていきたい。実際に子どもと関わり、授業で学んだことを実践で生かしたり、新たな発見をすることができる良い機会なので、より多くの学生に知ってほしいし、参加してほしい。また、充実した設備や環境を生かして、より豊富な知識や実践力を身に付けていきたい。

《秋吉学科長》学生時代に一生懸命取り組んだことは必ず将来へと繋がっていく。現場に立った時に役立つ実践力、その基盤となる理論を学生の間に身に付けてほしい。

第5回 初等教育学科運動会

2年　入江 友香

初等教育学科では1・2年生だけで行う運動会を毎年6月に行っています。これは新しく入学した1年生に、初等教育学科の楽しさや元気さを知ってもらうこと、学年を超えて友人・知人をつくることで、早く大学生活に慣れてもらうことを目的としています。また2年生にとっては、一つのイベントを計画し実行することの難しさや充実感を感じるとともに、新たな仲間を迎えた初等教育学科の団結力を高めることが出来る機会となっています。

実行委員のデザインしたTシャツによって色分けされた各チームは、それぞれ熱く、強い団結力を見せてくれました。また、運動会を進行していく中で起こった予想外の出来事には、チームの壁を越えて助け合うことができました。ここにも初等教育学科らしい思いやりや、協力の精神を感じました。

私は今回、実行委員長という大役を努めさせていただきました。おそらく一人ではなにも出来なかったであろう私が、この大役を果たすことが出来たのは、実行委員の仲間やご助力いただいた先生方のおかげです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この素晴らしい初等教育学科運動会が、これからも引き継がれていくことを強く願っています。

教育・保育実践研究会

act・s

教育・保育実践研究会（act's）は、将来、教育・保育に携わる仕事（教師・保育者）を目指す学生が集い、就実大学の修学課程の中で学んだ知識・技術を教育・保育現場で活かす実践力を培うことを目的として教育・保育に関する実践研究を行っています。

第1回ワークショップ　わくわくファンタジーランド

2年　佐藤　久美子

10月6日（土）、就実大学の模擬保育室にて、就学前の幼児とその保護者を招き第一回ワークショップを開催しました。act's としては初めての取り組みで、学生同士で話し合いを重ね一からすべて企画を行いました。子どもが興味を持ち、主体的に活動が展開できるよう工夫を凝らした遊びを考え、段ボール迷路や新聞プール、シャボン玉など、子どもの興味を引きつける遊びの環境を構成し、子どもたちに提供しました。子どもと接する中で、同じ遊びを夢中になって繰り返す姿や、自分で遊びを見つけて楽しむ姿、年齢による遊び方の違いなど様々な子どもの様子を見ることができ、多くのことを学びました。今回のワークショップを通して、保育の実践力が身に付くだけでなく、私たちが企画した活動で実際に子どもと関わることで大きな自信へとつながりました。貴重な経験をすることができ、是非この活動をこれからも継続させていきたいと思っています。

第53回中四国保育学生研究大会　パネルシアター

2年　友實　愛

私たち保育実践研究会(act's)は、11月24日（土）に島根県で開催された中四国保育学生研究大会に参加させていただきました。今回私たちは、パネルシアター「そらまめくんのベッド」－子どもの「見る」「聞く」「感じる」に働きかける活動を目指して－についての研究を行いました。

絵本をもとに台本を考え、パネルシアターならではの仕掛けを考え、舞台の装飾も工夫しました。特に、効果音については、一つひとつの音にとてもこだわり、登場人物の感情が子どもたちに伝わるように、身近なものを使って表現しました。研究大会では、現場の先生や専門的な研究をされている先生方からの講評もいただくことができ、様々な視点から意見をいただくことができました。また、他校の研究発表も見せていただきましたが、私の想像以上の表現力と演出力でした。パネルシアターだけでなく、劇やミュージカル、絵本の上演など私たちが行ったことのないものが多く、学び多い1日となりました。今後は、更に実践力を高めていけるよう、ワークショップの開催や子どもたちとふれあう機会を増やし、保育実践研究会の活動を広めていきたいと思っています。

就実こども園

認定こども園　就実こども園の紹介

古川恵子
園長先生

本園は、岡山市初の幼稚園型認定こども園で、幼稚園と認可外保育所が併設しています。0、1、2歳児は保育所、3、4、5歳児は幼稚園籍ですが、『心身共に健康でたくましい子ども』という教育・保育目標のもと、たくましい子（遊びや生活に意欲的に取り組み元気にのびのび生活する子）・優しい子（人や自然とふれあい思いやりの気持ちを持ち、心を通わせ仲良くできる子）の育成をめざす、一貫した教育と保育を提供しています。

また地域の子育て支援事業として「親子ふれあいタイム」「園庭解放」「育児相談」を定期的に実施します。大学の附属園として、教員の研究や学生の学習支援の役割を担うとともに、ネイティブ先生による幼稚園児の英語遊び、大学の先生を交えた職員研修など、大学の先生と連携し職員の資質向上と質の高い教育・保育を目指しています。

ボランティアに行ってきました

4年　黒川　万里

私は子どもたちと関わる中で、驚くこと、嬉しいこと、つい笑ってしまうような面白いことがたくさんあり、毎週行くことが楽しみでした。このボランティアを通して、自分の気持ちのもち方次第でより多くのことを吸収できるということを感じました。これから働く上でも、この前向きに取り組む姿勢を大切にしていきたいと思います。

就実こども園で学ばせていただいたことを糧に、来年の春から子どもたちの良さを見つけ、それをより一層伸ばすことのできる保育士になれるよう努力していきます。

4年　山崎　智也

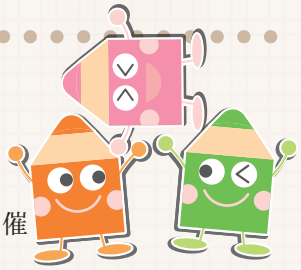
就実こども園のボランティアでは、先生方の保育補助や園庭・保育室の環境整備の手伝いなどを経験し、子どもを取り巻く環境づくりについて学ぶことができました。

保育者は子どもと直接関わるだけでなく、衛生面や安全面について子どもがよりよい園生活を送れるように園の環境についても十分に配慮する必要があることを知りました。

現場で行われている多様な環境づくりへの配慮に目を向ける良い機会になりました。これから保育士として働くうえで、大切にしていきたいと思います。

和久洋三 先生
講演会

子どもの目が輝くとき
～共感そして創造～



初等教育学会では、平成24年11月10日に和久洋三先生をお招きして、講演会を開催しました。

講師プロフィール

和久　洋三 先生

東京芸術大学大学院を修了の後、フレーベル館や保育園に勤務。退職の後、「童具」（子どもの遊びや学びのためにつくられた用品用具の総称をさす氏の造語）の開発と研究に専念。自身の教育理念や教育哲学を「WAKUMETHOD」として提唱し、「童具館」や「わくわく創造アトリエ」等を通じて、その実践法の普及やそのための童具製作に現在も活躍中。主な著書としては、『トーク トゥ トーク 育つ喜び育てる楽しさ』（共著）（玉川大学出版部、2008年）『遊びの創造共育法（全７巻）』（玉川大学出版部、2006年）『子どもの目が輝くとき』（玉川大学出版部、2003年）など。

3年　成田　彩香

私が和久洋三先生のお話を聞いて特に印象に残ったのは、「保育者は、自分が子どもより賢いと思って“指導”するのではなく、子どもには無限の力があることを認めることが大切だ」という考え方です。子どもたちはそれぞれ多様な才能を持っています。それを引き出すのは周りの大人の“指導”ではなく、子どもが集中して何かに取り組み、才能を発揮することができる“環境”であると学びました。また、子どもが自分の才能を自由に発揮するためには自己肯定感を持たせることが必要であるという考え方も、子どもを保育する立場にある者にとっては大切だと思いました。

私は将来「子どもはみんな違っていいんだ」という和久先生のお言葉を受けて、一人ひとりの子どもが輝けるような保育をしたいと強く感じました。

初等教育学科初めての試み
コラボ授業
保育実習実践研究 × 幼児の造形表現

シアターフレームって？　「シアターフレーム」とは、コラボ授業担当者（藤田・柏）が考案した造語で、市販されている人形舞台の製品をもとに教材として制作しやすいように設計したものです。制作者（保育者）が実践場面をイメージしてフレーム部分をアレンジすることにより、「劇場」「ジャングル」「海」「テレビ」など、様々なシチュエーションを演出することができます。

コラボ授業「シアターフレームの制作とその活用」

保育実習実践研究担当 **柏　まり**

コラボ授業では，初等教育学科２年生が履修している「幼児の造形表現Ⅰ」と「保育所保育実習実践研究Ⅲ」で共通する課題を設定することで、各科目の専門性から多角的視座で学生の保育実践力の育成を高めることを目指しています。今年度は、コラボ授業を保育所保育実習の準備の一環として位置づけ、「シアターフレーム」を教材とした制作活動と指導計画の立案及び模擬保育を行いました。

保育実践におけるシアターフレームの活用方法はアイディアしだいで多様に考えることができます。パペットやペープサートなどを用いると「人形舞台」となり、誕生会やお楽しみ会でも活用できます。何よりも、シアターフレームが持つ魅力で子ども達の興味を引きつけることができる教材です。

コラボ授業の作品と発表の感想

幼児の造形表現担当 **藤田　知里**

今回のコラボ授業で制作したシアターフレームは厚めのダンボールでできています。やや硬く、加工が難しかったようですが、各自のテーマごとに材料や装飾の表現を工夫して良い作品ができました。

シアターフレームが完成し、引き続き行った発表では、グループごとに演出を凝らし、次々パペットやペープサートが登場したり、伴奏に合わせて歌を歌ったり、とても楽しい発表となりました。シアターフレームは、通常の舞台とは異なり「演じ手」の表情が見えても良い、むしろ「演じ手」の表情から、観ている側に伝わるものが多い発表形態だからでしょう。

シアターフレームは、様々な場面で使用できるように応用の利くデザインを心がけました。今後の実習やボランティア等にてぜひ活用し、保育の幅を広げていって欲しいものです。

シアターフレームの実践を通して

2年　岩津　希

私は「保育所保育実践研究Ⅱ」の授業でシアターフレームの発表を行いました。先生にとっても私たちにとっても初めての取り組みだったので、試行錯誤の連続でした。よりよい発表となるよう、何度も話し合いをし、リハーサルも何度も行いました。

発表では、歌を歌ったり話をしたりと様々な展開や、フレームの導入の仕方を見ることができました。自分たちでは思いつかなかった工夫もあり、とても勉強になりました。私たちのグループでは、子どもが劇に集中できるよう子どもに保育士が見えないように配慮したのですが、反対に子どもが安心できるように保育士の顔を見せるグループもあり、様々な発表の仕方があることがわかりました。発表後にもらった皆からの感想には、自分が気づかなかった改善点が書かれており、とても勉強になりました。シアターフレームの発表を通して、保育者が劇の役になりきったり、様々な道具を用いることで、子どもを引き付けることができるのだと分かりました。実習前のとても良い経験になりました。

山下ゼミ グアム研修

初等教育学科
教授　山下　立次

専門分野：スポーツ社会学

現在の研究テーマ

地域スポーツクラブに関する研究

学校運動部に関する研究

（中学校運動部顧問に関する調査）

研修のねらい

近年急激に進む社会のグローバル化は、小学校での英語の必修化や児童の多国籍化に象徴されるように学校教育にも大きな変容をもたらしています。本研修を通して、教育者としてその変化に対応していくことができるような豊かな国際感覚を身に付けてほしいと考えます。

4年　田村　一樹

私は今年の春休みに、3月12日から16日までの5日間、グアム研修に行ってきました。この5日間の研修の中で、私は自身の特技である「けん玉」を活かして、アガニアハイツ小学校の子ども達と交流しました。ゼミの仲間も全力でサポートしてくれて、楽しそうにけん玉で遊ぶ子ども達の姿を見ることができました。

そして、グラウンドのステージで、全校の子ども、そして先生方全員の前でパフォーマンスする時間もいただけました。けん玉は日本の昔遊びであるため、グアムの人々がけん玉を目にする機会は少ないと思います。そのため、「けん玉の魅力を知ってもらういい機会だ」と思い、様々な難易度の高い技も披露しました。何度かは失敗もしましたが、温かい拍手や手拍子をいただき、非常に盛り上がることができました。

今回のグアム研修で、私は初めて海外に行きました。たった5日間という短い間でしたが、様々な場でお互いの文化を学びあうことができました。今回の研修での経験は、将来自分の人生の糧になると思うので、この経験をしっかりと活かしていきたいと思います。

まるまるワールド

3年　橋本　明日香

ワークショップ「まるまるワールド」では「まる」をテーマとして部屋や服などが汚れることを気にせず子どもがのびのびと自由な発想でダイナミックな造形活動を行って欲しいという思いから企画しました。画材のみではなく手や足まで使って全身で表現するという活動は普段の生活ではなかなかできない活動です。活動が始まると子ども達の自分の好きな色を手に取り、全身絵の具まみれになりながら夢中で活動に没頭する姿が見られました。その中で見られた、子ども同士や子どもと学生間のコミュニケーションは子どもの表現活動をより一層豊かなものにしてくれたのではないかと感じました。今後、子ども達の造形活動に関わることがあった際には、今回の経験を活かして子どもの表現を最大限に引き出せる場作りを行いたいと思います。

10月27日(土)に、本学E館の模擬保育室でワークショップ「まるまるワールド」を開催しました。このワークショップは初等教育学科の藤田ゼミの 3 年生が中心となって企画及び開催したもので地域の幼児から小学校低学年児童を対象として行い、絵の具を使って普段できないようなダイナミックな造形活動を子ども達と一緒に思いきり楽しみました。

小学校

平成 24 年 5 月 14 日～ 6 月 10 日の 4 週間、小学校教諭一種免許状を取得するため、4 年生が小学校実習に行ってきました。

4 年　東　智子

私にとって小学校教育実習は、多くの学びと課題を得ることのできた貴重な経験となりました。教師の日々の仕事や心構えについての講話、運動会や課外授業への参加、授業実践や生活指導など様々な経験をさせていただく中で、大学の授業だけでは分からなかった多くのことを学ぶことができました。

初めて子どもたちの前で授業をした時はとても緊張しました。しかし、先生方に助言をいただきながら回数を重ねていくことで、少しずつですが子どもたちの様子を見ながら発問を工夫するなど、余裕をもって授業を進めることができるようになました。発問の工夫臨機応変に対応し指をしていくことの難しさや大切さなどを学びました。

また実習先の先生方の姿から、一人一人の児童に対する深い理解が基盤にあるからこそ、豊かな学級経営や授業が成り立つのだということを学びました。私も実習中、毎日担当のクラスの子ども一人一人と話す時間を大切にしました。そして、そこで理解したそれぞれの子どもたちの様子や実態をもとに、その子どもたちに合った授業計画を考え、具体的な手立てを構じるように努力しました。

実習前に比べて、小学校教員という職に対する思いも強くなりました。自分自身、この実習を通して大きく成長することができたと思います。これからも実習で学んだ多くのことを日々の学習や将来に生かすことができるように努力し続けていきたいと思います。

実

幼稚園

平成 24 年 9 月 1 日～ 9 月 28 日の 4 週間、幼稚園教諭一種免許状を取得するため、3 年生が幼稚園実習に行ってきました。

3 年　豊田　佳保里

私は、4 週間の幼稚園教育実習を通して保育の難しさや大変さを実感しました。しかし、それ以上に大きな喜びや達成感を得ることができ、とても有意義な実習となりました。

いざ自分が実際に指導をすることになると、思うように指導をすることができないことも多く、保育の難しさを痛感しました。しかし、実際に保育をすることで多くのことを学ぶこともできました。例えば、月案や週案の「ねらい」に基づいて保育が展開され、「ねらい」を達成するために保育者の意図的な働きかけや言葉かけが大切であること、また、幼児の動線を考えて机や道具を置き、幼児が活動しやすい環境を構成することなどを改めて理解することができました。

先生方の保育では、子どもたちが楽しそうに組活動に参加したり、先生の絵本の読み聞かせに集中したりしていました。先生方の子どもたちとのかかわり方を参考にすることで、自分の指導を反省したり、次の指導の目標を考えたりすることができました。毎日の日誌や指導案に苦戦することもありましたが、子どもたちの笑顔や遊んでいる姿を思い浮かべると、自然に頑張ろうという気持ちが湧いてきました。

今回の実習で学んだことを今後に生かし、「幼稚園教諭になる！」という夢がかなえられるように精一杯頑張っていきたいと思います。

保育所

平成 24 年 8 月 20 日～ 9 月 11 日の 20 日間、保育士資格取得のため、2 年生が保育所実習に行ってきました。

2 年　河内　一貴

私が20日間の実習を通して実感したことは、「保育士の言葉がけ」の重要性です。実習中、子どもと関わる中で、「保育士の言葉がけひとつで子どもの行動は変わる」ということを強く感じました。保育士の言葉がけによって子どもは自信を持つことができたり、達成感を味わうことができたりします。そしてそれは、次の活動への意欲につながることを知りました。また、「～してはダメ」と否定的な言葉がけをするのではなく、「～したらどうなるのかな？」と問いかけることで、子ども自身が考えて行動するためのきっかけになります。このように保育士が子どもにかける言葉には、ひとつひとつ大きな意味があることを学びました。

実習報告会の様子

また何に取り組むにしても、「前回よりも少しでも良いもの」にするために振り返りがとても重要なものであることも学びました。実習を通して自分の保育を振り返り、再構成することで、さらに質の高い保育を実践することができると感じました。

慣れない環境で戸惑うこともありましたが、20日間の保育実習は私にとって大きな経験となると同時に、保育士になりたいといった気持ちをますます高めてくれました。実習で得ることのできた知識や技術を残り２年間の大学生活でさらに深め、将来につなげていきたいと思います。

実習

平成 24 年 10 月 15 日～ 10 月 27 日のうち10 日間、保育士資格取得のため、2 年生が施設保育実習に行ってきました。

施　設

2 年　安延　志穂

私は、「施設内の環境構成」「支援のプログラムの意義」「施設で働く保育士に求められる専門性」の３つを主な自己課題に掲げ、実習に取り組みました。中でも、「障害というものを、『その人が持っている障害』と捉えるのか、『障害を持っている人』と捉えるかで、障害の意味が変わってくる」という職員の方の言葉がとても印象的でした。「障害」のあるなしに関わらず、まずはその人と誠実に向き合おうとする姿勢をもつことが大切だと学びました。慣れない環境で戸惑うことや大変に感じることもありましたが、同じ目標に向かって頑張る仲間の存在はとても大きく、自分なりの自己課題に対する答えも見つけることができ、充実した 10 日間を過ごすことができました。

平成 24 年 8 月 17 日～ 9 月 7 日のうち 5 日間、教育・保育現場についての理解を深めるため、保育所、幼稚園、小学校、学童保育の各所でインターンシップを実施させていただきました。

教育・保育インターンシップ

1 年　安井　嘉輝

私は、小学生との関わりを経験したいと思い、インターンシップとして学童保育に参加しました。学童保育では、子どもたちの宿題を見たり、一緒に遊んだりしました。子どもたちとのかかわりの中で、楽しい時間を過ごしてもらうためには、自分自身がその時間を楽しむことが大切であることや、小さい子どもと話すときはリアクションを大きくすると喜んで話をしてくれることなど、実際に現場に行ってみないとわからないことをたくさん学ぶことができました。

子どもたちはとても輝いていて、私たちを困らせつつも、たくさんの元気をくれました。このインターンシップは、子どもの成長にかかわる教師という職を目指す私にとってこの上ない経験になり、ぜひ今後の大学での学びに生かしていこうと思いました。

キラリ☆かがやく先輩たち

✦教育現場で活躍する卒業生を紹介します。✦

社会福祉法人
宮川福祉会
富山保育園勤務
古川　雄一 先生
（2012年３月卒業）

４月当初は、子どもたちから、いたずらなどの試し行動をされたり、「ゆういち先生嫌い、前の先生がよかった」と言われたりしたこともありました。しかし、毎日一生懸命接していくうちにそれも無くなり、「ゆういち先生好き、いつもあそんでくれてありがとう」と言われるようになったときはとても嬉しく思いました。また、子どもの成長を身近で見られたときは保育士という仕事のやりがいを強く感じます。たとえば運動会。練習ではなかなかできなかったことが本番でできるようになったり、その子どもなりに一生懸命に頑張る姿が見られたりすると本当にうれしくて泣いてしまいそうになります。

めざす「先生」像

正直、今はまだ毎日が勉強で、「こんな先生になりたい！」という具体的なイメージはもてていませんが、「親子にとって一番の味方」となれる保育士になりたいと思っています。それぞれいろいろな環境があり、それぞれ不安や悩みがあると思います。それを少しでもサポートできるようになりたいと思います。

また、お父さんにとって身近な保育士になりたいと思っています。「子どもの相談をしたいけど、女性の先生にはちょっと」というお父さんもいるかもしれません。そのようなときに気軽に相談できる存在になりたいです。

就実大学・
就実短期大学附属
就実こども園勤務
北村　望 先生
（2012年３月卒業）

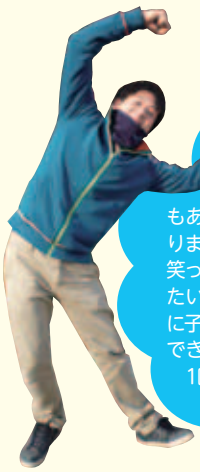
私が担任している2歳の子どもたちは今少しずつ自分の身の回りのことができるようになってきている最中です。自分で頑張って服を着ようとしたり、トイレに行き排泄をしたりなど、私にとっての“当たり前”が、子どもたちにとっては初めてのことばかり。毎日子どもたちの“できない！”という悔しい顔や泣いた顔、“もう一回やってみようかな”という一生懸命な顔、“じぶんでできた！”という笑顔を見て、こうやってできることが1つずつ増えていくのかなと考えながら子どもたちをそばで見守っていけることが今の私のやりがいです。

めざす「先生」像

子どもたちが“自分でできた！”という瞬間が1つでも多く増えるように、そばで見守ることを心がけてはいますが、つい、手を貸しすぎてしまうことがあります。子どもが今していることだけでなく、次に何をしようとしているかなどを見て、声をかけるべきか、見守るべきか、手を貸すならどこまで貸すかなど、一人ひとりに合った援助ができるように今後もしっかりと子どもたちとかかわり、一人ひとりのことを知っていきたいと思います。

また、初めて見る、初めて触るなどの体験を通して、“これは何？”“どうして？”と興味をもったり、疑問を感じたりする瞬間を子どもたちにたくさん出会わせてあげられる教師になりたいです。

先生をめざすみなさんへ！



先生という職業はすばらしい！もちろんつらいこともありますが、それ以上にうれしいことや楽しいことがあります。みなさんも先生になって子どもたちと一緒に沢山笑って笑顔になってくださいね！今、みなさんにおすすめしたいのは積極的にボランティアに参加することです。実際に子どもたちと触れ合うことで教科書だけでは学ぶことのできない実践的な勉強をすることができます。
1回だけではなく、定期的に行くことをお勧めします！

ボランティア活動に参加して良かったと感じています。一緒に活動する中で学校内に支え合える仲間ができ、今でも大切な存在となっています。今の園に就職し、子どもたちや保護者の方、信頼できる先生方にも出会うことができました。みなさんも今ある繋がりを大切に、これからできる繋がりを楽しみに過ごしてくださいね。

編集後記

初等教育学科としての新たな取り組みや、新設された附属子ども園との関わりなどについて、1人でも多くの関係者の方々、地域の方々に知っていただきたいという気持ちで、私たち学生委員は、この「色えんぴつ」を作成しました。ぜひご覧ください。

学生運営委員
４年生　乙倉里衣、日笠由貴、東智子
３年生　加藤佑美、佐藤香菜子、長畑由美、水田順公
２年生　河内一貴、佐藤久美子、友實愛、森亮介
１年生　藤野由美、本田敦子、薬師寺清楓、山﨑優一

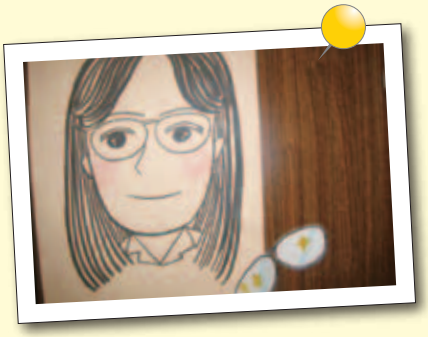
イラスト
４年生　中野結加

教員編集委員
青砥弘幸、片山敬子、柏まり、竹中伸夫、本田真美、渡邊言美

先生方の紹介

今年度、初等教育学科に着任された先生方を紹介します。

素敵な先生ぼっかいだ！



教授

なかい　ともこ

中井　智子先生

○主な研究テーマ
学校の組織力を高め、児童の健やかな成長に貢献する魅力ある教師
○趣味
読書
○中学校時代に入っていた部活動
合唱部
○10年後の夢
四季の花が咲く庭づくり
○先生から学生へ一言
今は過去の積み重ね、未来は今の積み重ね。自分らしく輝く学生生活を！！

講師

あおと　ひろゆき

青砥　弘幸先生

○主な研究テーマ
国語科授業研究　教育とユーモア（笑い）
○趣味
広島東洋カープを猛烈に応援すること
○中学校時代に入っていた部活動
テニス部　陸上部
○10年後の夢
自分が大学で教えた学生が実際に教師や保育士として頑張っている姿を見に行くこと。
○先生から学生へ一言
夢のために今、自分ができることやするべきことを見つけ、小さくても良いので確実な努力を始めてください。

講師

かたやま　けいこ

片山　敬子先生

○主な研究テーマ
子どもの体力　リラックス
○趣味
トレーニング　料理
○中学校時代に入っていた部活動
ソフトボール部（主将、投手、4番打者）
○10年後の夢
誰もが羨む健康美を手に入れているかっこいい女性！！
○先生から学生へ一言
あるがままに、なすべきことをなせ！！そうすれば、未来は拓ける！！